

## 2020年度 事業報告

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

### 《概要》

2020年度は、コロナ禍による第1回、第2回緊急事態宣言によりその期間中、協会事務所を閉鎖しHC活動や傾聴活動を停止しました。さらにあじさい会館の貸室禁止期間、各委員会を中止し、理事会は正副会長会とし、通常総会も会員からの議決権行使書により正副会長で審議しました。2020年度の事業計画のうち、市民桜祭り、夏のボランティア養成講座、10月のほかほかふれあいフェスタ、2月のボウリング大会などは中止しました。ただ、ぼら通の発行と住まい探しサポート事業などは知恵を絞って1年を通して活動しました。

禁止期間外での事業を見ると、HC事業は12号車の購入、傾聴事業はニーズに従って活動しました。この2つの事業は対人との関係があるので、活動中消毒、換気やマスクなどの徹底と利用者さんへもお願いしました。春の講座は中止も考えましたが、集まらなくても出来る「ZOOMによるオンライン会議開催」と銘打って地域のボランティアグループなどを対象として3月24日に行いました。

あたらしい事業として、大阪社協のレポート「集まれなくてもつながる方法」からヒントを得てDVD制作委員会を立ち上げました。その手始めに10月に中止したほかほかふれの会場を使ってDVDを制作し、さらに協会の案内とHCのPR用のDVDなどを作っています。

2020年度は、協会始まって以来の困難な1年でしたが、会員の感染者も出ず、利用者さんの感染者が出なかったことは皆さんの努力の結果と思っています。本当にありがとうございました。

### 《特定非営利活動にかかわる事業報告》

#### 1. ボランティア活動の総括

ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していく事を目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いを実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。なお感染予防対策のため一部は中止あるいは内容変更の形での実施となりました。

#### 《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
HC事業活動	451名	330名		運転及び介助ボランティア
交流事業				
・市民桜まつり	—	—	—	中止
・ほかほかふれあいフェスタ	—	23名	87名	中止 特別イベントとして、ホールでの活動紹介のDVD撮影。 関係者のみで開催
(障害者週間キャンペーン)	1500名	10名	60名	
・新春ボウリング大会	—	—	—	中止
傾聴ボランティア活動	127回	266名		対象者19名、活動者26名、
ボランティア養成講座	16名	8名	8名	
広報活動	—	86名	55名	月刊、季刊誌、ホームページ
事務局	—	491名	庶務239人・HC調整業務252人(月～土)	

## 2. 高齢者、障がい者への援助活動

### (1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の福祉車両とセダン型車を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ330回に及ぶ運行を行いました。4月に発令された緊急事態宣言によりハンディキャブ運行事業を一時中止しました。再開後は車内の消毒・換気、運転者・利用者に対する検温・手指消毒といった感染対策を実施しました。10号車の経年使用により代替車両の新車購入を行い2020年12月に配置しました。その他小中学校の「みんないい人体験講座」にも参加を予定していましたが、実施はありませんでした。

《2020年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	330件 (103)	451名 (149)	330名 (103)	0名 (0)
学校協力事業	体験学習など	0件			

#### [ハンディキャブ新規利用者訪問]

事務局の活動として行う新規利用者訪問はHC運行事業の基本となるもので、訪問時に「申し込みのキッカケ」を聞き、身体状況の把握、利用の必要性、利用の目的などを把握して、利用会員入会申込を受付けます。2020年度は事務局閉鎖及び感染予防対策として訪問を制限しましたので、入会数は少なくなっています。実施した場合も電話での事情確認を主とし、手続きのための訪問は単独で行いました。

2020年度3月の利用会員総数は59名となっています。

#### ・新規利用者訪問実施状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
申 込	42	19	19	12
訪 問	31	11	14	5
訪問者延人数	61	22	28	5
入 会	30	9	13	5

### (2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、新しい進展を得られていません。ぼらんていあ通信及び季刊誌わくわくでボランティア団体を紹介する記事を掲載しました。

さらに市民桜まつりは中止となり、ほかほかふれあいフェスタは内容を変更しての開催、ボウリング大会は中止等交流事業はほとんど実施できない状況でした。

#### (イ) 市民桜まつり

市民桜まつりは開催中止となりました。準備としてはパレード用の横断幕の作成、各種の活動で着用するスタッフジャンパーを作成しましたが、活用できませんでした。

#### (ロ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2020」は、全体のフェスタは中止とし、特別イベントとして2020年10月17日(土)にあじさい会館ホールにて開催し、参加希望団体による発表をDVDにして、ほかほかふれあいフェスタ及び各団体のP

Rに活用することとしました。参加は5団体、ホール入場は関係者に限り、感染予防対策を徹底して開催しました。参加者は関係者100名でした。相模原市、相模原市社会福祉協議会の後援を得ました。ホール前の掲示板を使つての展示は4団体の参加でした。

さらに、12月6日(日)には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのキャンペーンを実施し約1,500名の方にPRしました。なお、今回は物品販売にのびやかなの手工芸品が出店し、興味を持たれる方が多くいました。

#### (ハ) 障がい児者とのボウリング大会

第37回になる障がい児者との新春ボウリング大会の開催を2月13日(土)に開催することを年度初めに計画しましたが新型コロナウイルス感染禍、例年の主要参加事業所・作業所等の参加意向を確認する等種々検討した結果中止としました。

### (3) 傾聴活動

当協会は、2014年度から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。在宅で外出も少なく、人と話す機会が少なく孤立し、孤独になりがちな居宅の方を対象とし、月1回1時間程度、2人で訪問しお話を聴いています。介護保険では傾聴活動が提供されることはなく、その部分をボランティア活動でカバーすると言う趣旨です。利用者の紹介は市社協ボランティアセンターや居宅介護事業所ケアマネージャーからの紹介の他、ハンディキャブ利用会員へのパンフレット配布などのPRを行っています。

2020年度は、127回の傾聴活動を計画し、利用者は19名でした。これまでの傾聴活動の推移は次の通りです。本年度は2020年4月7日～5月25日、2021年1月8日～3月21日の間、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が発令され、その間は本活動を休止しました。

#### 《直近5年間の傾聴活動の推移》

年度	活動件数	実利用者数	実活動者数	延べ活動者数	直前中止件数
2016	75	12	20	154	11
2017	148	14	27	310	7
2018	158	22	32	354	27
2019	222	23	32	433	36
2020	127	19	26	266	24

### (4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

厚生労働省の委託事業・相模原市の委託事業として、NPO法人文化学習協同ネットワークが運営している「さがみはら若者サポートステーション」に対する支援・協力の一環として同組織を利用している若者が来所し、当協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務(発行物の四つ折り、封入、切手貼り等)を発送ボランティアと一緒にしています。作業を通して気軽に会話を交わすことで、職場での対人関係の育成訓練に寄与する事を目指しています。2020年度は新型コロナウイルス感染禍の関係で、4月～7月並びに1月、2月は参加がありませんでした。8月～12月並びに3月で延べ31名の参加がありました。

注) さがみはら若者サポートステーションとは: 通称「相模原サポステ」と言いニートや引きこもり状態の若者の“新しい自分づくり”と“しごと探し”を応援している組織

### (5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止のための援助活動を相模原災害ボランティアネットワークと協働実施しています。2020年度はこれまでの活動を総括し、新しいボランティアを募集して体制づくりに努めました。また活動のために必要な機材を整えました。

2020年度は活動の依頼はありませんでした。

この活動は市危機管理課が作成しているチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

### (6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会（まち協）からの要請による「住まい探しサポーター」としての活動も7年を迎えました。今年度、相談会は計画を変更して6回開催され、延べ12名を派遣しました。また、サポーターとして業者へ同行する活動に1件2名が参加しました。

相模原市とまち協の相談会等事業の連絡会議は中止となりましたが、新しく相模原市居住支援協議会が設立され、当協会も役員として参加することといたしました。

## 3. ボランティア養成に関する活動

ボランティア活動を始める人を対象に、基礎講座、コース別講座を開催する方式による恒例の講座は、2020年度は新型コロナウイルス感染防止を考慮して実施しませんでした。このようなコロナ禍の中にあつて是非獲得したい技術としてオンライン会議の開催を取り上げ、ZOOMを対象とした講座を行いました。

## 4. 情報発信に係わる事業

当協会の発行する「ぼらんていあ通信」は1981年以来毎月発行し、2021年3月で通巻472号となりました。当協会の活動報告、講座、イベントの記事やボランティア団体への訪問記事、クイズ、イラストなどに加え、ボランティアの募集、市社協の活動内容記事などを掲載しました。また、「ツイッターコーナー」や「理事のつぶやき」で会員の皆さんの日頃の思いを掲載しました。

「ぼらんていあ通信」の配布先は会員以外にも市内のボランティア団体、公民館や学校などにも配布し、情報提供を図りました。

2020年度は編集委員会ができない期間があり、印刷を工夫して行い、発送も自宅での分担作業にするなど、ページ数を減らす月もありましたが、毎月発行を守ることができました。

季刊のボランティア情報誌「わくわく」は49号を発行。ボランティア関係の座談会や、福祉に関する情報提供も盛り込み、300部を発行しました。編集委員の都合などの理由で50号発行をもって一旦休止とし、新しい編集メンバーの参加を募っています。50号発行は2021年度発行となりました。

協会のホームページは、さらに読みやすいページにするよう工夫をしました。閲覧者も月平均1,000名を超えており、これからの情報発信の有効な活用が期待されます。

理事会において、新型コロナウイルス感染拡大の中でできることを検討した結果、外部に対して協会のことを広報するためのコンテンツの充実が必要であるという結論が得られ、DVD制作実行委員会が結成されました。委員メンバーは6人であり、市社協から井上氏がアドバイザーとして参加いただいて委員会が発足しました。

## 5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健福祉審議会、地域福祉推進協議会、福祉のまちづくり推進協議会、防災市民会議、市社会福祉協議会のボランティア・市民活動団体部会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）の運営委員として、SSVの運営に係わっています。

## 6. その他の事業

### (1) 法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、組織に必要な配置が十分できておらず、一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。

事務局運営体制の整備、役割分担については、2020年度1名の採用、1名の退職という結果で、体制整備が充分進まず、依然として継続課題となっています。役割分担については理事会において継続検討事項となっています。

### (2) 活動財源確保のための活動

会員の皆様には認定NPO法人制度を利用した寄付促進の説明をぼらんていあ通信に掲載しました。

また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」へ参加しています。

### (3) 新規正会員勧誘の活動

例年行っているボランティア養成講座や入門講座の最終日に協会やハンディキャブの説明および申込み窓口を開設し、新規会員の獲得を推進することが講座等の中止によりできませんでした。

当協会のホームページ、市民活動サポートセンターの紹介資料にも掲載しました。

### 《直近5年間の正会員数推移》

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
正会員数	121名	118名	116名	115名	110名
当年度入会者数	23名	12名	11名	15名	4名
前年度退会者数	17名	15名	13名	16名	9名